



梅島小だより

夏休みが終わり、学校には、子どもたちの元気な声が戻ってきました。
今年も夏季休業中に児童のみなさん一人一人が工夫して取り組んだ自由研究が教室前に展示されています。
どれもみなさんが一生懸命取り組んだり、楽しそうに取り組んだりした姿が目には浮かぶものばかりでした。
どれも甲乙つけがたい自由研究の中から、私なりに印象的だったものをこの場をお借りしていくつか紹介させていただきます。

1 「イヌとネコの毛」(5年Sさん)

身近にいるイヌとネコの毛の比較をしました。動物と接しているなかで「あれ、イヌとネコの毛ってなんか違うな」というふとした気付きから研究が始まりました。手触りなど自分で実際に確かめたり、顕微鏡で見たりして、詳しく調べました。身近な題材を扱っていることが何より素晴らしいと思いました。

2 「ドライアイスの性質、実験」(5年Tさん)

ドライアイスがなぜ、もくもくとけむりのようなものを出すのか、そんな素朴な疑問からこの研究がスタートします。実際に試行錯誤しながら、いろいろなことを確かめて、疑問がどんどんひろがっていきます。自分の考えでいろいろなことを確かめていることがとても素晴らしいと思います。

3 「表面張力の実験」(6年Tさん)

コップにあふれんばかりに入った水の表面は不思議ですよ。なぜこぼれないのか……。ふと気付いた疑問から実験が始まります。水の中に入れるものやコップに入れた液体によって結果が異なります。その実験を何度も繰り返して平均値を取るところが科学的な姿勢として大変素晴らしいと思いました。

4 「おみそについて」(6年Mさん)

家庭科で実習した味噌汁づくりの体験がもとになってこの研究が始まりました。実際に味噌を自分で作ってみるところまで研究が深まります。味噌づくりの奥深さを体験できたと思います。学校での学習を自由研究で発展させ、深めているところがとても素晴らしいと思います。

5 「ツバメの観察」(6年Yさん)

親戚の家に巣をつくっていたツバメを毎日じっくりと観察しました。身近にいる動物を毎日しっかりと見ることによって、いろいろな変化に気付くことができました。このような機会はふだんの生活ではなかなかないものです。観察の目をしっかりと養う機会を逃さなかったことが何よりも素晴らしいと思います。

6 「集中力について」(6年Iさん)

夏休みに課題に取り組んでいる自分の集中力が続かないことにふとした疑問を抱き、「どうしたら集中力を保てるのだろう」という課題で研究に取り組みました。その結果、集中力の持続にはいろいろな要因が関係していることが分かりました。自分自身をテーマにするという視点が独創的で大変素晴らしいです。

7 「夏の新聞まとめ」(6年Kさん)

夏休みに読んだ新聞の記事を、大切な言葉や文に絞って要約することに継続して取り組みました。マーカーで線を引くなど、要約する過程も分かりやすく示されていました。さらに、記事の内容に関連した自分の体験も、短い文章に分かりやすくまとめました。体験を関連付けたことがとても素晴らしいと思います。

このほかにも、まだまだ紹介したいすばらしい研究や作品がたくさんありました。

紙面の都合で一部の皆さんしか紹介できないことをお許し下さい。

今回紹介させていただいたみなさんの研究には、次のようなよさがありました。

- 身近なことを取り上げている。
- 自分との関わりを大切にしている。
- 学習したことを生かしている。
- 自分の考えをもとに工夫している。
- 「なぜだろう?」という疑問を大切にしている。

みなさんの研究は、身の回りや目の前のことに、研究の素晴らしいヒントが隠れていることを、教えてくれました。来年も、みなさんのすてきな研究に出会えることを楽しみにしています！